

イネ縞葉枯病(ヒメトビウンカ)防除には
ピメトロジンを含む育苗箱施用剤がおすすめです

ピメトロジンを含む育苗箱施用剤
(ビルダーフェルテラチェス粒剤等)の
移植当日処理(50グラム/箱)は

縞葉枯病の
多発地域も
これで安心!!

イネ縞葉枯病(ヒメトビウンカ)に対して
移植70~80日後まで実用的な防除効果を示します。

イネ縞葉枯病はヒメトビウンカが媒介するウイルス病

● 分けつ期の症状 ●



● 防除の対象 ●

病原ウイルスを媒介する
ヒメトビウンカです



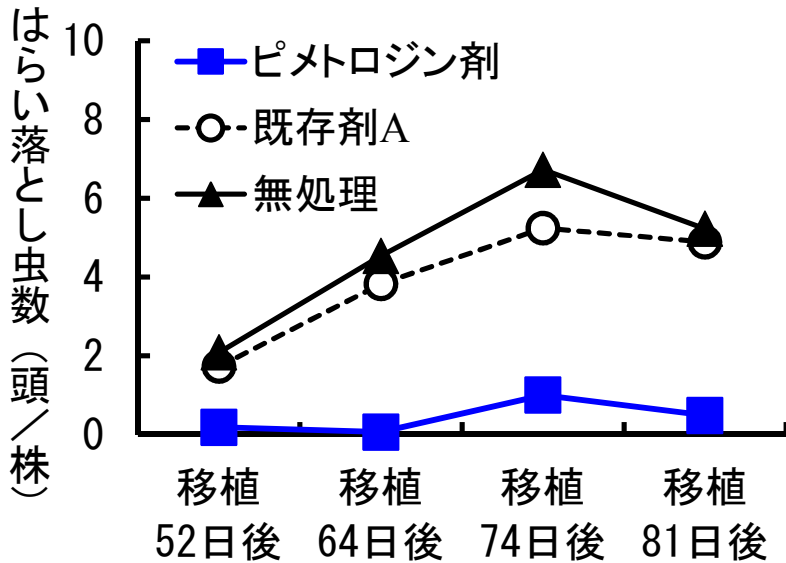
● 出穂期頃の症状 ●



● 被害のようす ●

株が枯れたり、莖数が減ります。
発病した株の多くは出穂しないか、
出穂しても籾が実りません。
ひどい場合は平伏に枯れます。

ヒメトビウンカに対するピメトロジン剤の防除効果



試験年：2016年

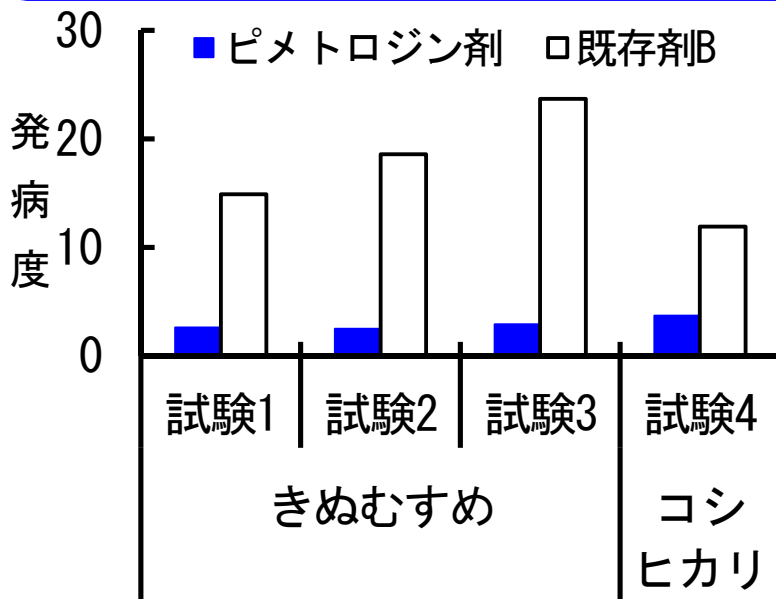
耕種概要

- ・品種：きぬむすめ
- ・移植日：5月30日
(18箱/10a)

使用した育苗箱施用剤

- ・ピメトロジン剤
ビルダーフェルテラチェス粒剤
 - ・既存剤A
Dr.オリゼプリンス粒剤10
- ※いずれも移植当日に処理
(50g/箱)

イネ縞葉枯病に対するピメトロジン剤の発病抑制効果



試験年：2017年

移植日：5月31日～6月5日
(15～17.5箱/10a)

調査概要

8月18日～22日に
イネ縞葉枯病の発病度を調査

使用した育苗箱施用剤

- ・ピメトロジン剤
ビルダーフェルテラチェス粒剤
 - ・既存剤B
ルーチンエキスパート箱粒剤
- ※いずれも移植当日に処理
(50g/箱)

【本情報を活用する際の留意事項】

- ①2018年2月22日現在、ピメトロジンを含む育苗箱施用剤として、ビルダーフェルテラチェス粒剤等があり、ヒメトビウンカ以外の鳥取県主要初中期水稻病害虫(葉いもち、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、ツマグロヨコバイ、セジロウンカ、トビイロウンカ、チョウ目害虫等)に対して農薬登録されています。なお、移植当日より前の薬剤処理については、各農薬の登録内容に従ってください。
- ②ウイルスを保毒したヒメトビウンカの発生が極めて多い場合、ピメトロジンを含む育苗箱施用剤を使用したほ場においても被害が発生します。このような地域では耕種的防除(秋～早春のほ場耕耘等)を併用してヒメトビウンカ密度を減らして下さい。
- ③薬量が不足すると防除効果が低下するので、規定量を丁寧に散布してください。